

農山村の地域資源を次世代に

『都市と農村をつなぐボランティア活動』

とちぎ 夢 大地 応援団



休耕田の復旧作業
雑草の刈り取りに汗を流すジュニア
(8月19日)



ソバの種まきに取り組む (8月19日)

平成18年度

とちぎ夢大地応援団ジュニア育成活動の報告

次代を担う子供達に農業と農山村への関心と理解を深めてもらうことを目的に、小学生とその親による農業体験と農地の保全活動を行いました。

内 容 休耕田の復旧活動、ソバの栽培とそば打ち
水路の点検
竹細工に挑戦 (ソバの盛皿、おチョコ製作等)

開催日 8月19日、10月22日、11月19日の3回実施
場 所 霧ヶ岳山村文化体験村 (那珂川町)



8月に播種したソバの収穫
(10月22日)



自ら栽培したソバでそば打ち
(11月19日)



作業を終えて全員そろっての写真 (8月19日)

はばたけ夢大地

第2号

2007/3

とちぎ夢大地応援団事務局
(財) 栃木県農業振興公社
栃木県農務部農村振興室

とちぎ夢大地応援団の支援を受けて

—はじめて取り組んだ地区からの報告—

地域が生き生きする感触

(鹿沼市下沢引田地区 代表 岩本 文雄)



自然観察会場の整備 (H18.8.5)

昨年8月5日には、夢大地応援団の皆様には大変お世話になりました。お陰様で8月26日に行われました「生きもの観察会」は、きれいに整備された水路周辺で楽しく気持ちよく実施することができました。

私共の住む地域は、今まで変化に乏しい平々凡々とした地域でしたが、夢大地応援団活動や様々なイベントを実施することで、地域外の人達が多く集まり、地域が生き生きする感触を覚えました。外なる人々とも交流しながら、自らの足元に埋もれた歴史や文化を掘り起こし、それを地域の道標として位置づけて、地域社会を豊かにしていくことが私共の理想です。今後と

も夢大地応援団の皆様や、地域外の人との交流を密にして地域の活性化につなげていきたいと思しますので、応援のほどよろしく願いいたします。

ホタル来い我が里に

(塩谷町羽谷久保地区 代表 斎藤 勝美)

かつては無数のホタルが飛び交っていた「ホタルの里」も大雨等の被害により、次第にその数も減って、それと共に住民の意識も薄れてきていました。丁度そんな時「とちぎ夢大地応援団」の存在を知り、すぐ入会申込みをしました。「住民の意識を取り戻すにはこれしかない」とまさに背水の陣でした。とは言え、受け入れ側がしっかりしなければという不安がありました。

しかし、その不安は取り越し苦労でした。当日は県内外から約35名のボランティアを迎え、地元住民25名とともに、強い日差しの下にもかかわらず約2時間で、公園内の除草、水路の復旧作業を完了することができました。水路に水が流れた瞬間の拍手と歓声が住民の心に新たな決意を呼び戻してくれたように思います。



ホタル水路の再生 (H18.9.3)

ホタル水路の再生を地元と共に

とちぎ夢大地応援団A会員 走出 政視 (宇都宮市)



私たちボランティアグループでは、大勢の仲間がとちぎ夢大地応援団員（A会員）に加入しています。「羽谷久保親水公園のホタル水路の再生活動」には、有志13名が参加しました。会場のホタル水路は、数年前の台風で泥が埋まり、草に覆われ湿地溝の状態でしたが、ぬかるみに足を取られながらの2時間後には川底の泥が除かれ、上流の堰を開くと水が勢いよく流れ始めました。その時は、参加者の中から一斉に歓声上がり、活動の達成感を感じました。

作業の後は、きれいになった公園のなかで、地元の婦人会の心のこもった「けんちん汁」のお振る舞いと、地元出身の作詞家木下龍太郎様の講話を楽しく聞かせていただき、充実した1日を過ごすことができました。

ホタルの再生後には、仲間で孫達をつれてぜひホタル見学に行きたいと、今から楽しみにしています。

様々な活動への支援に とちぎ夢大地応援団が活躍

—活動地区からの報告—

夢大地応援団から力を得て

(鹿沼市中粕尾地区 代表 若林 正夫)

夢大地応援団の支援を受けて、一生懸命に作業をする都市住民ボランティアの姿は、地域の人達に、元気・勇気・やる気を与え「こんな所でも、見捨てたもんじゃねえな」という気にさせてくれました。

地域の活力向上のために、活動を通じての共に汗を流し、交流関係を深め合える都市の方々を増やしていきたいと考えています。

また、遊休農地に小松菜の種を播き、農地保全を図っていくなかで、小松菜の種子を交流の種子として大切に育てていきたいと思っています。陽春の頃には、花芽摘みや食味会と併せて自然観察会を計画しています。今後はホタルの季節だけではなく、四季を通じて交流を行っていく予定です。



水路の清掃活動 (H18.9.24)



棚田の集落に活気

(那須烏山市国見地区 代表 大武 幸雄)

高齢者の集落であるため、棚田周辺が荒れるのに手が回らず苦慮してきました。夢大地応援団を受け入れることで、棚田の環境は良くなり、何よりも集落員に活気が見られるようになりました。

都市の皆さん方とは、これからも交流を深めていきたいと考えています。そして、集落の中にも、地域をもっと魅力ある地域にしようとの機運も出つつあります。

棚田の周辺に花畑を創り、棚田と花とみかん園が一体となった景観づくりに取り組んで行きたいと考えています。写真は棚田の保全活動 (H18.10.21)

応援団の支援で山里が変化

(茂木町河又地区 代表 河又 トモイ)

夢大地応援団を受け入れたことで、最初は虹色の里あじ彩メンバーの女性のみの活動でしたが、地域全体の男性と一緒に盛り上げてくれるようになり、一体感が生まれました。また、周辺の雑木林を整備して、見晴台などの新たな魅力を発見することができました。過疎化や小学校の廃校などで元気がなくなった集落でしたが、現在は地区の集まりでも、「次はどこを整備しようか」など昔のような活気が戻りつつあります。

今後も夢大地応援団の力を借りながら、集落に元気を取り戻し、たくさんの人が訪れて、河又の自然と楽しんでくれるような、憩いの場所を作っていきたいと考えています。



山里で展望台づくり (H18.12.2)

夢大地応援団に参加して

宇都宮大学 矢内歩惟

私は、那須烏山市国見地区での草刈り・雑木伐採のボランティア活動に参加しました。

作業を始める前は見ると、荒れた土地。ゴールが、わからないまま草を掻き分け、目の前にあるものを次々に刈っていきました。それは、草・ツル・木と様々。草は根元から、ツルは引っ張りながら、木はチェーンソーに頼み、足元はぬかるみと戦いながら復旧作業を進め、沢の上流へと登っていきました。そして数時間後、ついに作業終了！体はドロドロのボロボロに。

しかし、私達が草刈り・雑木伐採を行った下流を見ると疲れはスッと抜け、「やりきった」という清々しさになりました。作業終了後のみんなで食べるご飯を含めて、この活動はやみつきです。



国見の棚田保全に集合した面々 (H18.10.21)

トピックス

中山間地域等直接支払制度の 共同取り組み活動

夢大地応援団活動で集落が結束

「日本の棚田百選」認定地

—那須烏山市 国見地区の事例—

那須烏山市の国見地区は、農家の高齢化や後継者の不足などで、農地の管理維持に苦慮してきましたが、平成12年度から中山間地域等直接支払制度の特認指定を受けて、地域住民が一緒になって、草刈りや清掃など行い、棚田の保全に努めてきました。



また、平成16年度からは、「とちぎ夢大地応援団」を受け入れ、棚田の保全や遊休農地の環境保全等を行ってきました。

夢大地応援団活動が都市住民との交流を深めるとともに、集落の結束を高め、共同活動の充実に効果を発揮しています。

学生が夢大地応援団活動に 積極的に参加

—宇大、栃農大、宇都宮白楊高生が大勢応援団員に—

学生がとちぎ夢大地応援団活動に積極的に参加しています。

平成18年度は、鹿沼市下沢引田地区での活動をはじめ、各地域の活動に、大勢が参加されました。学生達の積極的なボランティア活動への参加は、地域の人達に強い感動をもって迎えられ、大変喜ばれています。

さらに、今年度は、宇都宮白楊高の生徒と先生方が、多数、とちぎ夢大地応援団員（A会員）へ加入されました。

活動を通じて、次世代を担う若者が農業・農村への理解や関心を高めるとともに、地域住民との交流により、農山村の活力の向上がおおいに期待されます。

事務局 (財) 栃木県農業振興公社

320-0047 栃木県宇都宮市一の沢2-2-13
Tel 028-648-9511 Fax 028-648-9517

栃木県農務部農村振興室

320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
Tel 028-623-2334 Fax 028-623-2337